

## 第 1 回委員会の議論概要（大阪・関西万博の成果）

第 1 回成果検証委員会において、各委員・関係者から大阪・関西万博の成果について次のような意見があった。これらを踏まえて、下線部については新たな項目として「大阪・関西万博の開催実績及び成果の整理案」への追記や必要な修正などを行っていく。

## 1. 開催実績

- 万博開催に向けて国を挙げて取り組んだことで日本の国力を世界に向けて発信できた

## 2. 成果の整理案

## ① つながり・交流の拡大、深化

## 【外交】

- 夢洲での長期滞在を通じた多国間交流の深化、政府関係者・専門家同士の縁の形成
- 多数のボランティアスタッフまで含めた、運営者の国際人材としての成長

## 【市民・社会】

- 計画外・偶発的な出合いが会場の至るところで生まれたこと

## 【文化・芸術・学術】

- ミヤクミヤクや「こみやく」に象徴されるデザイン・アートの創出
- 「共創」という価値観の実践
- 来場者が受け手にとどまらず、運営側にも関わるといふ新しい参加意識
- 分野横断的な連携が進み、知見やつながりが次に活かされる意識が生まれたこと
- 伝統文化とデジタルの融合といふ新たな文化的価値
- 挑戦することで価値が生まれるといふ成功体験

## 【ビジネス】

- 海外との接点が少ない中小企業が、万博を契機に自社の技術・製品を世界に発信し、評価や商談の端緒を得たこと
- 企業間イノベーションが促進され、経済効果が非常に大きかったこと

## 【地域】

- ・ 「けいはんな万博」を通じた産官学民連携が実際に機能したこと
- ・ 人と人とのつながりが繰り返し生まれ、新たな価値創造につながったこと
- ・ 大阪市で36年ぶりの姉妹都市提携を含め11の国・都市等とのMOU等締結による国際ネットワーク拡大
- ・ 世界各国とのリアルな交流
- ・ 大阪・関西の国際的発信力の向上
- ・ 来場した外国人に会場外も含めて日本の魅力を感じてもらえたこと

## ② 新たな価値観の気づき・共有

### 【1. いのちの在り方、人々の多様性】

- ・ 160以上の国・地域が半年間にわたり集い、いのちについて共に考え行動したこと
- ・ 命の多様性の意義を社会に伝え、特に若い世代にとって重要な記憶となること
- ・ 万博がゴールではなく、人間の生き方を考える出発点となったこと
- ・ オールインクルーシブな運営の実践
- ・ 大屋根リング・静けさの森は成果そのもの

### 【2. デジタルの浸透とリアル体験の価値の再発見】

- ・ リアルな交流の価値を再確認し、失われつつあることへの歯止めとなった点
- ・ サイバー時代における「生身の人間」「集合」の意味の再認識

### 【3. 地球温暖化への適応意識】

- ・ 酷暑下開催を通じた気候変動への適応意識の社会的浸透

### 【4. 未来社会への期待】

- ・ 日本の技術・システムが来場者のみならず各国・企業からも高評価を得た
- ・ 「いのち輝く未来社会」に寄与する最先端の技術・サービスを体感できる場を提供したこと

## ③ 新たな取組として生み出した技術・システムの実証

### 【デジタル】

- ・ 会場内全面キャッシュレス決済の実現
- ・ 想定外への対応などを通じ、日本の社会の力・現場力を世界に示した
- ・ バーチャル万博の試行
- ・ 万博史上初の予約システム・万博ID導入による大規模運営の成功